

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 3 部門第 5 区分
【発行日】令和 7 年 5 月 14 日(2025.5.14)

【公開番号】特開 2024-174279(P2024-174279A)
【公開日】令和 6 年 12 月 16 日(2024.12.16)
【年通号数】公開公報(特許)2024-235
【出願番号】特願 2023-101222(P2023-101222)
【国際特許分類】

A 4 2 B 1/04(2021.01)

10

A 4 2 B 1/018(2021.01)

A 4 2 B 1/0181(2021.01)

A 4 2 B 1/0186(2021.01)

A 4 2 B 1/019(2021.01)

A 4 2 B 1/00(2021.01)

【F I】

A 4 2 B 1/04 Q

A 4 2 B 1/018 Z

A 4 2 B 1/0181

A 4 2 B 1/0186

20

A 4 2 B 1/019 B

A 4 2 B 1/00 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 7 年 4 月 7 日(2025.4.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

30

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ハットの形をした頭を覆う本体と該本体部の周縁全周にツバを設け、前記防水帽子には該防水帽子を顎下で固定できるように固定用顎紐 3 が取付けられており、前記防水帽子の前記ツバの全周には、着用者の体を囲み足の部分まで伸びる透明生地 2 が接着固定されており、該透明生地 2 には前記ツバの周方向における両端部に前記ツバから前記足の部分まで伸びて該透明生地 2 を開閉可能とする留具 4 が設けられていることを特徴とした雨除け帽子。

【請求項 2】

前記ツバは、前記本体部に対して後側が前側に対して後方向に広いことを特徴とする請求項 1 に記載の雨除け帽子。

40

また、固定用の紐は、布などでも良いのが請求項 1 の雨除け帽子。

【請求項 3】

前記ツバの全周長に対して、前記透明生地 2 の前記ツバとの接着代の長さが、該接着代の部分にギャザーが設けられるように、長く形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の雨除け帽子。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

50

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

頭から被る雨具に関する。

【背景技術】

【0002】

例えば、下記特許文献1にはツバが大きい雨除けの帽子が提案されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

10

【0003】

【特許文献1】登録実用新案公報第3017936号

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

雨天時には、主に傘が使用されており、傘の忘れ物は非常に多くごみ処分量も多い問題がある。そこで、傘いらずの雨除けとして上記特許文献1に開示されている雨除け帽子や、カッパやポンチョなどといった雨除けもある。上記雨除け帽子では、横風が吹くと体が濡れてしまい、カッパやポンチョでは着脱時に時間を要し、顔が濡れてしまう。

本件は、風や雨具の着脱時においても体が濡れない課題を解決するもので。

20

【課題を解決するための手段】

【0005】

本発明は上記の問題を解決するために開発したものであり、ツバ付き帽子のツバ部全周に透明生地2を足までの長さにするることにより、体や手荷物などを守ることを特徴とする雨除け帽子の提供であり、また、前記防水帽子1に透明生地2で構成され、防水帽子1には固定用顎紐3、透明生地2には留具4を防水帽子周縁部から足の部分まで取り付けつることによって体と手荷物などが濡れることを防ぎ、カバンなどに入れて持ち歩けることから、忘れ物の減少、ゴミの削減に繋がる防水帽子の提供にある。

【発明の効果】

【0006】

30

本発明は、ツバ付き帽子の周縁全体に透明生地を接着してなる頭から被る雨具であって、前記顎紐3を付けた防水帽子1に留具4を付けた透明生地2を付けた頭から被る雨具であるから、風や雨の防止、従来忘れ物に多い傘、傘の処分ゴミ削減を目的とした頭から被る雨具。

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】本発明からなる頭から被る雨具の全体図である。

【図2】本発明の防水帽子1と透明生地2の接着拡大図である。

【図3】本発明の分解図である。

【発明を実施する為の形態】

40

【0008】

本発明の実施形態は、図のようにツバ付き帽子ツバ周縁全体に雨除けを装着してなる頭から被る雨具であって、前記防水帽子1に固定用顎紐3を付け、留具4の付いた透明生地2を防水帽子1に付けた防水帽子であるから、従来の雨除け帽子とは体や荷物全体の雨除けであって、風雨を防ぐことが可能となる。

【0009】

また、前記防水帽子1は、半球凸のもの（クラウン）にドーナツ型のツバ（ブリム）を付けた形が好ましく、ツバは、前側を狭く、後ろ側が広いと視界を塞がず、雨水も後ろへ流れやすくなることから、雨漏れを防ぐことが可能になる。

【0010】

50

更に、前記防水帽子 1 のツバ先端円周が 1 に対し透明生地 2 の接着辺はおおよそ 2 の大きさが好ましく、透明生地 2 は、防水帽子 1 との接着辺をギャザーにし防水帽子 1 のツバ内側に接着することで雨を防ぐ。

【 0 0 0 1 1 】

前記透明生地 2 は、防水帽子との接着辺を横とした時、ファスナー付け辺を縦とし、透明生地 2 に留具 4 を片側は数センチ中心寄りに、もう片側は端に、開閉部が裏表からできるようにすることで、着脱しやすくした防水帽子の提供にある。

【 符号の説明 】

- 1 防水帽子
- 2 透明生地
- 3 顎紐
- 4 留具

10

20

30

40

50